

2023年4月26日 空調タイムズ掲載記事より抜粋

今年度からの新体制を掲載いたしました。  
何卒、よろしくお願いいたします。

## 田中工具株式会社

### 2023 中部地区空調・冷熱春季特集

## 『いつものアレ』で要望通りの納品

田中工具

冷凍空調機材  
常時1万点超

## 建築設備現場を下支え



松井 雄一社長



永田 和寿統括部長



近藤 優樹倉庫長

冷凍空調機材商社の田中工具（社長＝松井雄一氏、本社・名古屋市瑞穂区前田町1-63）は、冷凍空調資材、冷凍空調専門工具・一般工具、フロ

ン類等ガス類・化成品、冷凍空調機器・同周辺部品、一般管工機材、支持金具・ネジ・ファスナー類、電気資材など1万点を超える商品を常時揃

え、持ち味の機動力を活かした供給体制で建築設備現場からの信頼に応え続けている。常連顧客からは『こ

アレ』『いつものアレ』で注文が入り、聞き返すこともなく要望通りのものを届ける。『お客様にとって一番身近で便利な仕入先』でありたいという同社の確固たる方針が貫かれている。

昨年は創業60周年という同社にとって節目の年となった。1962年、田中重雄氏が田中工具製作所としてスタート。当時、右肩上がりの成長だった自転車向け専用工具の製造・販売を長らく主業とした。やがて取り扱

い商材を冷凍空調設備関連商品に切り替え、1981年に「田中工具株式会社」に法人改組したのを機に冷凍空調分野のウエイトを高め、現在の事業基盤を固めていった。

取引先は愛知、静岡、岐阜、三重の4県。冷凍空調設備工事業者への納入が多くを占める。

前2月期業績について松井社長は、「名古屋市内の大型案件が本格的に進むのはこれから。前期は各商材の価格改定等が増収をもたらしたが、材料費、物流費、燃料コストなど諸費用の高騰が収益を押し下げた」とする。

需要先動向については「工場系、物流倉庫系の物件増に伴う工具、資材の注文増が顕著に見られる。当面、この傾向は続

きそうだが、既存分野における新規設備投資は慎重な動き。ただ、CO<sub>2</sub>冷凍機導入に絡む工事は明確に増えている」と話す。また、今期、松井社長が力点を置くのが再生フロンの販売。フロンの生産・輸入規制の進展で再生フロンの需要が伸びており、これに対応する措置として販売強化を図っている。

社内人事面では営業統括部長に永田和寿氏、倉庫長に近藤優樹氏をそれぞれ抜擢した。永田氏は入社23年のベテラン。松井社長は「お客さまの困ったにすぐ動く。お客さまにとって何がベストなのかを常に考えてくれている。業界に精通し、お客さまからの信頼は厚く、永田さんに任せたい」との指名を頂くとともに「多い」と評す。一方、新設の倉庫長に就いた近藤氏は入社4年ながら前職の大手外食チェーンでの経験を活かし、社内の業務改善活動にも積極的に取り組む。『丁寧+速さ』がモットー。来店顧客への荷出しの確実さとスピードは随一。外は永田統括部長、内は近藤倉庫長という二枚看板を

中心に全社一丸となって「お客さまのために」を追求したい」と松井社長は今期からの新体制に期待を寄せる。